

第1部のおさらい：貨幣の原型

2021年5月18日

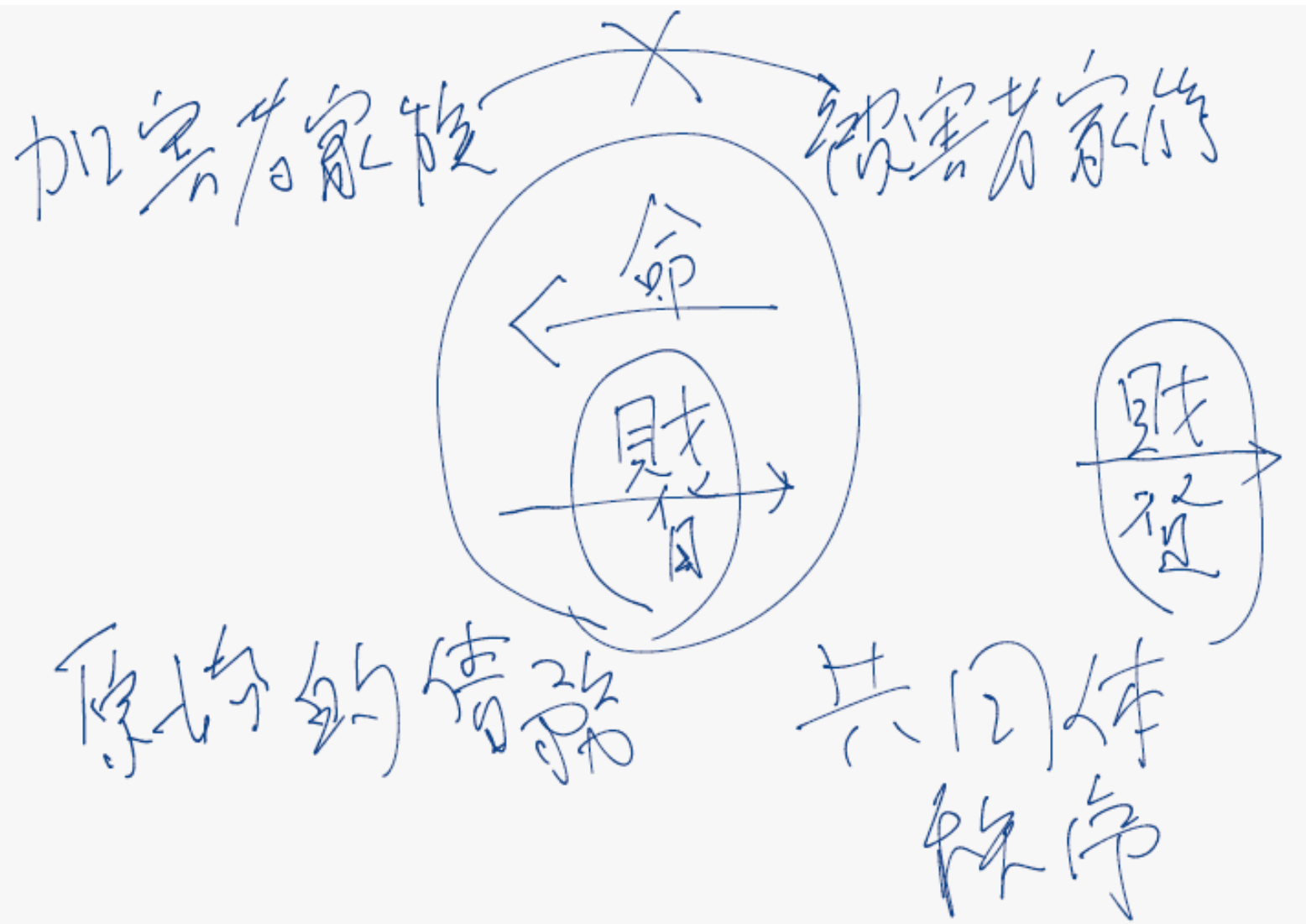
齊藤 誠

貨幣の2つの源流

- 財貨が貨幣となった！
 - しばしば、**商品貨幣**と呼ばれる。
- 信用（貸借）が貨幣となった！
 - しばしば、**信用貨幣**と呼ばれる。
- 商品貨幣と信用貨幣の両面を有する**鑄貨**

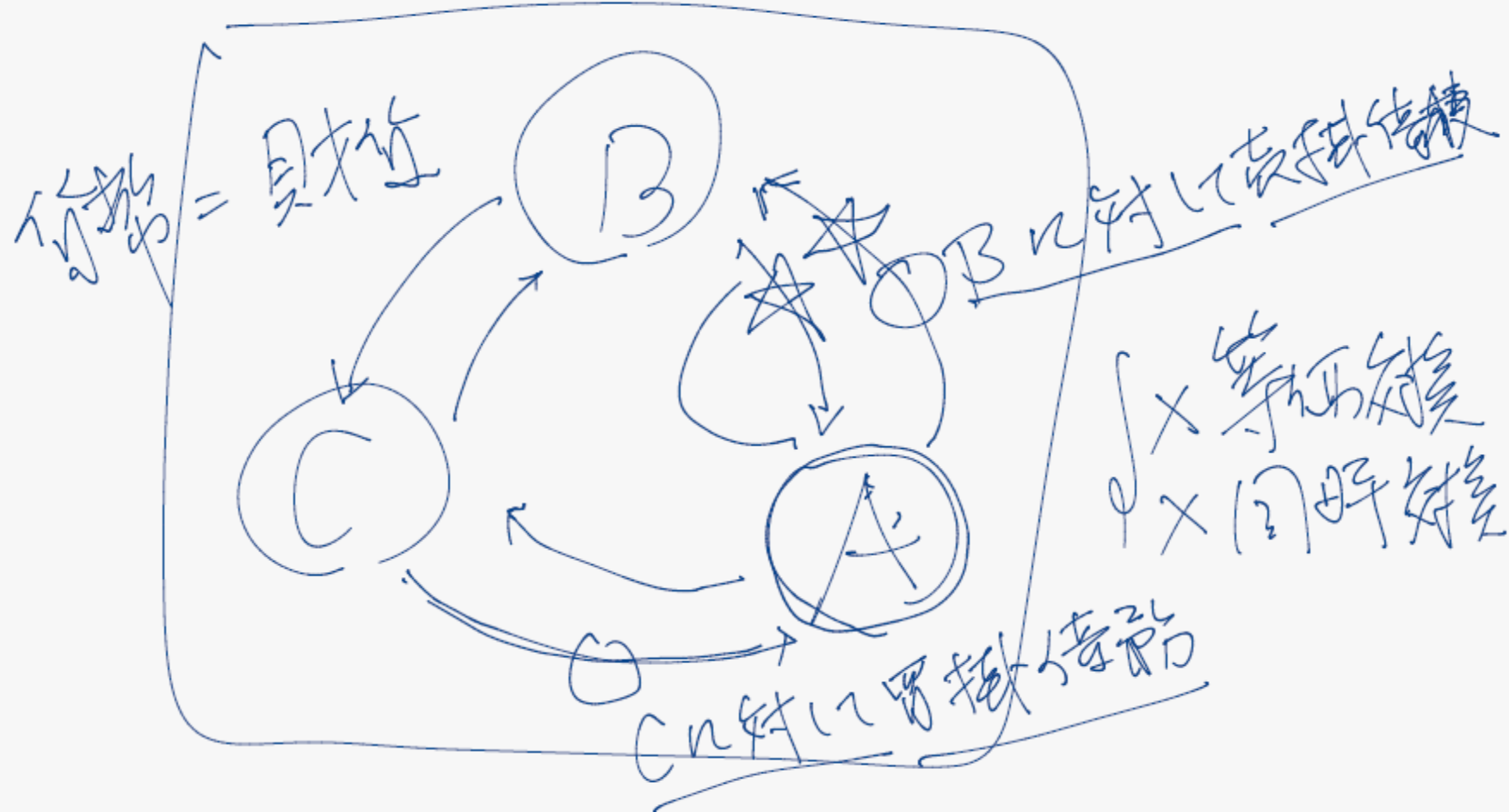
原始貨幣の誕生

- 加害者家族による被害者家族に対する債務返済された（希少な）財貨が貨幣となった。
- より一般的には、共同体や先祖への債務の支払が原始貨幣となった。



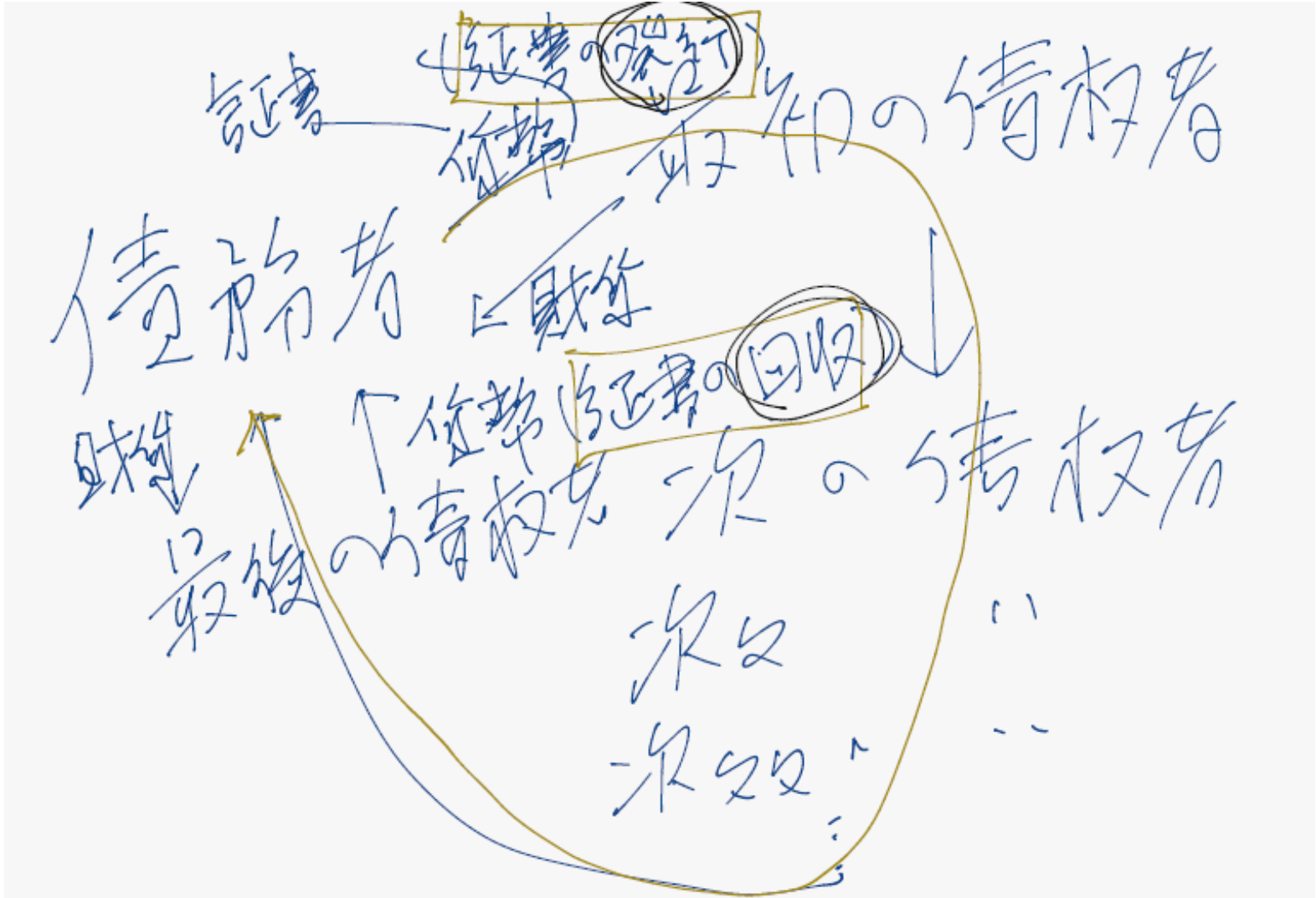
原始貨幣の流通

- 財貨の**永遠の循環**を必要とする。
 - 典型的には、**円環**！
- **一方向の場合**、あるヒトからの受取り（買掛債務）は、他のヒトへの支払い（売掛債権）で相殺する。
 - 通常の貸借とは異なる。
- **双方向の場合**、任意のペアーの間で受取りと支払いの相殺が起きるが、必ずしも等価の関係にあるわけではない。



信用貨幣の誕生と流通

- **公共空間**で**権威のある債権者**との債務証書の発行
 - 共同体の構成員は、債務が返済されることを確信している。
- 債務が期限に返済されるという期待の下で、**債務証書の譲渡**によって債権者の交代が起きる。
 - この場合、譲渡可能な債務証書は、**支払い手段を備えた信用貨幣**として流通する。



世代間で流通する信用貨幣

- **最初の親**は、子供に対して**信用貨幣**を発行して、財貨を得る。
- 子供が親になると、自分の親からもらった信用貨幣でもって、自分の子供から財貨を得る。
- **世代が永遠に連鎖する**という期待の下で、信用貨幣が世代間で流通する。

最終の
問題

子

財貨

↓貨幣

(信用証券の発行)

すいけど
返済しない

財貨

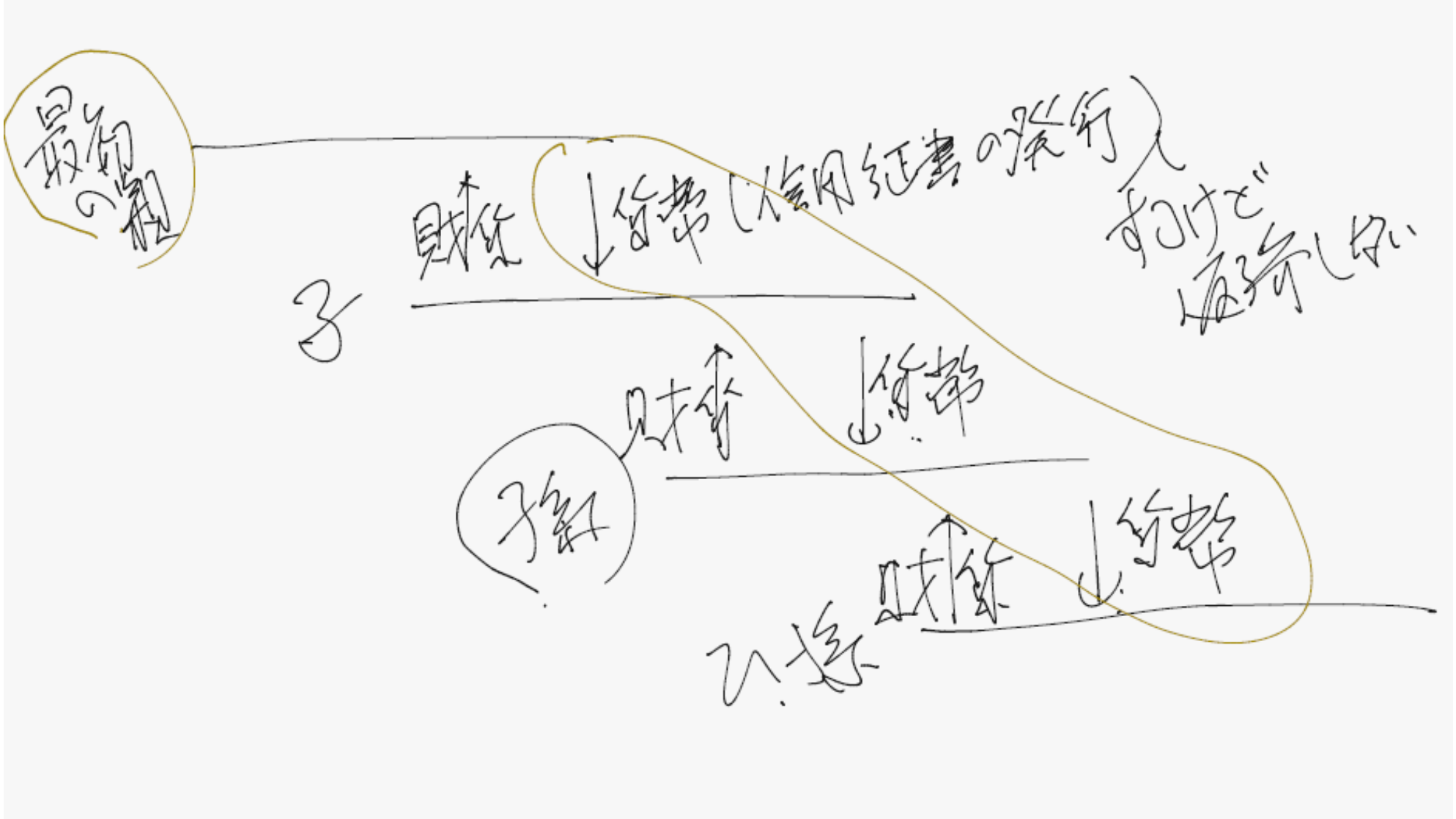
↓貨幣

子孫

子孫

財貨

↓貨幣



商品貨幣と信用貨幣の両面を有する鑄貨

- **秤量貨幣**：鑄貨（金貨、銀貨、銅貨）は、当初、商品貨幣として生まれ、地金価値が通貨価値を決定した。
 - 秤量貨幣は、地金価値が証明できれば、発行者は誰でもよかった。
- **計数貨幣**：国家が鑄貨を発行するようになって、通貨価値が地金価値を上回るようになった。
 - 計数貨幣には、国家による通貨発行と、通貨回収（鑄貨による税支払い）の循環で価値が支えられるという意味では、信用通貨の側面を有していた。
 - 民間の鑄貨保有者から見れば、鑄貨（国家に対する債権）によって税（国家に対する債務）を支払うということでは、信用通貨と同様に債権と債務の相殺が認められる。